

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 城野 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問調査

児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	知識及び技能における「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」の正答率が全国平均を上回った。
	よくできた問題	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかを見る問題
	努力が必要な問題	自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる問題

算数	全体的な傾向や特徴など	学習指導要領の領域「数と計算」「測定」「変化と関係」において全国平均を上回ったが、「図形」「データの活用」において全国平均を下回った。
	よくできた問題	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかどうかをみる問題
	努力が必要な問題	簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかをみる問題

理科	全体的な傾向や特徴など	学習指導要領の領域「エネルギー」を柱とする領域と「生命」を柱とする領域で全国平均を下回り、「粒子」を柱とする領域と「地球」を柱とする領域で全国平均を少し下回った。
	よくできた問題	電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる問題
	努力が必要な問題	レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる問題

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査の結果分析
<p>・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」「いじめは、どんなことがあってもいけないことだと思いますか」の問いに対して、100%の児童が肯定的に回答している。学校で行っている人権教育学習や、日頃から多くの教員が子どもたちと関わる機会をつくったことで、子どもたちの自尊感情やいじめのない学校づくりへの意識が高まっていると考えられる。</p> <p>・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができますか」「学級活動における学級での話し合いを活かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」の問いに対して、100%の児童が肯定的に回答している。日々のコグトレでコミュニケーション能力や共感性が高まり、その力が普段の学習や生活にも役立つことを子どもたちが実感している。その結果、子どもたち同士の意見交流や学び合いが盛んに行われ、主体的・対話的で深い学びに繋がる授業実践ができています。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・週5日、朝の時間に「認知機能強化トレーニング（コグトレ）」を位置づけ、基礎学力の基盤づくりを推進する。
- ・どの学習にも必要な読解力を高めるため、身近に本がある環境を整え、気軽に本を読む習慣づくりを促すような読書活動を推進する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・本校作成の「学習・生活のてびき」を全家庭に配布し、生活習慣や学習習慣について周知する。
- ・「家庭生活・学習がんばり週間」を毎月設定し、がんばりカードを配布して、基本的な生活習慣の様子を保護者とともに確認して記述できるようにする。